

## 「人工知能AIと仏教」

秋田県 永泉寺副住職 猪股尚典

最近よくAIに関連するニュースを耳にします。特に「ChatGPT」と呼ばれる言語処理技術の発展が目覚ましく、今後社会に大きな影響を与えることは間違いありません。違和感のない言語でAIが与えてくれる情報をみると、人類の「考える能力」が益々衰えるのではないかと危惧されるほどです。機械の能力を自分に取り込んでいく事が人類の進化になるのか分かりませんが、すでに漢字変換能力の衰えに愕然としている人は私だけではないでしょう。

私は僧侶の道を歩む前に、大学で人工知能の研究をしておりました。特に音声言語を機械が認識するシステムの開発に取り組み、現在使われているアシスタントAIと呼ばれるものの基礎になる分野を研究していました。「AIのプログラム」と聞くと機械が勝手に何でも行ってしまうように思われますが、実際は機械の学習と判断が妥当であるかを一つ一つ人間がチェックし、プログラムを修正していく地味な作業の積み重ねです。その努力の成果が近年実を結んでいることは携わっていた者の一人として喜ばしいのですが、知能を得る可能性のあるAIとどのように関わるべきか真剣に考えるべきです。

人類は言葉を発明したことによって、文明を大きく発展させてきました。しかし言葉は物の本質をとらえているわけではなく、永遠であるかのように錯覚させてしまうものでもあります。「りんご」一つとっても、自分が見ている「りんご」と他人が見ている「りんご」のとらえ方は違いますし、常に変化している物には本質が無いというのが仏教の空（くう）の考え方です。そして言葉に頼ることなく己の修行に真理を見出していくのが禅僧の姿です。

どんなに綺麗な言葉を並べられても、私たちが直接経験する感動に勝るものはありません。早朝に坐禅をしていると朝日が自分を包み込み、鳥の鳴き声が自分の意識と同化します。尊い命の世界、これは言葉では言い表せませんね。言葉から離れて坐ってみませんか。